

2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年8月9日

上場会社名	サークレイス株式会社	上場取引所	東
コード番号	5029	URL	https://www.circlace.com
代表者（役職名）	代表取締役社長	（氏名）	佐藤 潤
問合せ先責任者（役職名）	取締役CFO	（氏名）	工藤 正通
四半期報告書提出予定日	2022年8月9日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	： 無		
四半期決算説明会開催の有無	： 無		

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第1四半期の業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	613	—	8	—	3	—	1	—
2022年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	0.49	0.46
2022年3月期第1四半期	—	—

（注）1. 2022年3月期第1四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の数値及び2023年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。

2. 当社株式は2022年4月12日付で東京証券取引所グロース市場に上場しております。潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の計算においては、新規上場日から当第1四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,248	793	63.4
2022年3月期	719	219	30.3

（参考）自己資本 2023年3月期第1四半期 791百万円 2022年3月期 218百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,783	22.8	235	56.3	221	58.2	220	25.3	53.94

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	4,212,500株	2022年3月期	3,350,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	4,080,631株	2022年3月期1Q	2,300,000株

- (注) 1. 2022年1月20日開催の臨時株主総会決議に基づき、2022年1月20日付で定款を変更し、A種優先株式4,400,000株を廃止するとともに、普通株式が4,400,000株増加しております。
2. 2022年2月4日付で株式2株を1株に併合しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置解除など、経済活動の制約が緩和される正常化に向けての動きが見られたものの、ウクライナ情勢などの不安定な国際情勢、原材料価格・エネルギー価格の高騰による消費マインドの低下、急激な円安進行などから、先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況下、当社においては、エデュケーションを除いたすべての事業において、売上は、前年を上回る実績をあげております。主力事業でありますSalesforce Consulting、Anaplan Consulting、カスタマーサクセスにおいては、リモートワークでの対応ができることを強みに前年に引き続き堅調に推移しております。また、DXにおいては、駐在員管理クラウドサービス「AGAVE」が堅調な売上を計上しております。最後にエデュケーションにつきましては、月によって売上のばらつきがあり、当第1四半期累計期間においては若干前年を下回りましたが、安定的に推移しております。

これらの結果、当第1四半期累計期間の実績は、売上高613,978千円、営業利益8,392千円、経常利益3,181千円、当期純利益1,983千円となりました。なお、当社は、「デジタルプラットフォーム事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は1,154,160千円となり、前事業年度末と比べ529,267千円増加しました。これは主に現金及び預金が529,036千円増加したことによるものであります。主な内訳は、現金及び預金818,897千円、売掛金241,041千円であります。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産は94,238千円となり、前事業年度末と比べ382千円減少しました。これは主に有形固定資産が2,692千円減少し、投資その他の資産の「その他」が2,310千円増加したことによるものであります。主な内訳は、有形固定資産11,205千円、繰延税金資産74,253千円であります。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は341,750千円となり、前事業年度末と比べ30,287千円減少しました。これは主に買掛金が9,982千円減少、短期借入金が30,000千円減少、1年内返済予定の長期借入金が14,130千円増加、賞与引当金が41,127千円減少したことによるものであります。主な内訳は、買掛金22,467千円、1年内返済予定の長期借入金56,520千円、賞与引当金46,593千円であります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債は113,480千円となり、前事業年度末と比べ14,130千円減少しました。これは長期借入金14,130千円減少したことによるものであります。内訳は、長期借入金113,480千円であります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は793,168千円となり、前事業年度末と比べ573,303千円増加しました。これは主に資本金が285,660千円増加し、資本剰余金が285,660千円増加したことによるものであります。主な内訳は、資本金385,660千円、資本剰余金433,660千円、利益剰余金△27,713千円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日に「2022年3月期 決算短信」で発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,860	818,897
売掛金	261,660	241,041
その他	73,371	94,221
流動資産合計	624,892	1,154,160
固定資産		
有形固定資産	13,898	11,205
投資その他の資産		
繰延税金資産	74,253	74,253
その他	6,469	8,779
投資その他の資産合計	80,723	83,033
固定資産合計	94,621	94,238
資産合計	719,513	1,248,399

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,450	22,467
短期借入金	30,000	—
1年内返済予定の長期借入金	42,390	56,520
賞与引当金	87,721	46,593
その他	179,477	216,169
流動負債合計	372,038	341,750
固定負債		
長期借入金	127,610	113,480
固定負債合計	127,610	113,480
負債合計	499,648	455,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	385,660
資本剰余金	148,000	433,660
利益剰余金	△29,697	△27,713
株主資本合計	218,302	791,606
新株予約権	1,562	1,562
純資産合計	219,864	793,168
負債純資産合計	719,513	1,248,399

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	613,978
売上原価	300,427
売上総利益	313,551
販売費及び一般管理費	305,159
営業利益	8,392
営業外費用	
支払利息	215
株式公開費用	4,995
営業外費用合計	5,210
経常利益	3,181
税引前四半期純利益	3,181
法人税等	1,198
四半期純利益	1,983

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年4月12日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2022年3月8日開催の取締役会において、新株式の発行を決議し、2022年4月11日に払込が完了いたしました。また、同取締役会において、大和証券株式会社が行うオーバーアロットメントによる売出しに関連して、同社を割当先とする第三者割当増資による新株式の発行を決議し、2022年5月11日に払込が完了いたしました。これにより、資本金及び資本剰余金がそれぞれ285,660千円増加しております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、この変更による四半期財務諸表に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。